

祈りのきずな

1月

歴代誌上14章～歴代誌下15章

芦屋教会（福岡）牧師 尹 正鉉（ユン ジョンヒョン）

1日(水)歴代誌上14章

ダビデが王になると、ペリシテ人が戦いを挑んできました。その時ダビデが一番先にしたのは神さまのご意思を求めたことです。彼は国難の度に謙虚に神さまにひざまずき、主の言葉どおりに行いました。今年の願いや必ずやり遂げたいことは何ですか。まず神さまのみ心に耳を傾けつつ新年を始めましょう。

人吉教会と永淵一隆牧師（熊本・人吉市）

2日(木)歴代誌上15章

過去のつらい失敗を繰り返さないためにダビデは徹底的に規定通りに行いました。神さまのお言葉のとおりに従うことが成功の秘訣です。自分の知恵や経験、習慣よりもっと大切にすべきことは神さまのお言葉です。「**あなたの御言葉は、わたしの道の光／わたしの歩みを照らす灯**」（詩119・105）。

熊本南教会と朴哲浩牧師、大森俊明伝道師（熊本・宇土市）

3日(金)歴代誌上16章

ついに神の箱はダビデの町の天幕の中に安置され、礼拝がささげられます。ダビデは大いに喜び、神さまに感謝と賛美をささげました。主日礼拝に招かれることに感謝と賛美をもって応答していますか。礼拝が奉仕や役割等により重荷になって感謝と賛美が薄れていないか振り返り、礼拝の喜びを取り戻しましょう。

羊の群れ伝道所と朴哲浩牧師、大森俊明伝道師（熊本・宇土市）

4日(土)歴代誌上17章

神の民は、神さまが喜ばれることは何かを常に考え、それを行うものです。「わたしは彼の父となり、彼はわたしの子となる」(13a)とは、ご自分を喜ばせようとする者への最高の祝福です。神さまを愛する者は神さまに愛されます。今日も何がみ心であるか何が神に喜ばれるかを求めつつ光の子らしく歩みましょう。

東熊本教会と三上充^{まこと}牧師(熊本・熊本市)

5日(日)歴代誌上18章

戦争の勝利は自分の力ではなく、神さまによることを知るダビデ。彼は得られたものを主なる神さまにささげます。人生を、今日を、生きる力は主なる神さまから与えられます。自分の命、家族、子どもたちの笑い声、フレッシュな空気、仕事、隣人、一日三食の食事、祈る力。すべて主なる神さまからの恵みなのです。

豊岡伝道所と工藤信也^{しんや}代表者(熊本・合志市)

6日(月)歴代誌上19章

ダビデの好意を誤解した結果、戦争で多くの人びとが犠牲になりました。他人を利害関係で見た結末です。自分にとって損か得かで他人の重さを測っていませんか。他者は愛するように与えられた存在です。時に他者を愛することで損したり傷つけられたりしますが、それは栄光^{ひかり}の傷であって神さまに喜ばれる生き方なのです。

山鹿^{やまが}新生教会と船越哲義^{てつぎ}牧師(熊本・山鹿市)

7日(火)歴代誌上20章

ダビデの連戦連勝は神との契約の成就です。どんなに強力な敵でもダビデの相手ではありませんでした。主なる神さまがダビデの味方だからです。今、あなたが恐れていることは何ですか。それが何であれ、主なる神さまがあなたの味方であることを忘れないでください。インマヌエルの神さまはあなたを守ります。

熊本愛泉教会と朴哲浩協力牧師、田中芳樹代表役員代務者(熊本・熊本市)

8日(水)歴代誌上21章

連戦連勝するダビデは高ぶり、サタンに誘惑されます。そして結局、神さまに打たれてしまいます。自分の思いのままに生きるか、それとも神さまのみ心に従って生きるか、常に問われています。信仰生活はこの二つの心の戦いです。何が神さまのご意思なのか知っているのに自分の思い通りにしようとはしていませんか。

やつしろ
八代伝道所（熊本・八代市）

9日(木)歴代誌上22章

ダビデは継承者ソロモンに神殿建築を命じ、神さまの言葉に従う生き方を強調します。礼拝と生活は別々ではありません。会堂での礼拝だけでは意味がありません。日頃から神さまを中心とする生活こそが信徒のささげるべき本当の礼拝なのです。今日も神さまに喜ばれる礼拝者として生きていきましょう。

たねがし
種子島伝道所と沼田俊昭牧師（熊本・熊毛郡中種子町）

10日(金)歴代誌上23章

老年のダビデは主の神殿で仕えるレビ人を呼び集めます。まだ主の神殿が建てられる前ですが、将来イスラエルの民が主の神殿で礼拝する日を夢見ているのです。次世代の信仰のために教会はどんな努力をしているでしょうか。これから私たちにできることは何か、教会の課題として積極的に取り組んでいきましょう。

はまかわ
菊池シオン教会と濱川耕一牧師（熊本・合志市）

11日(土)歴代誌上24章

ナダブとアビフは神さまの規定に反して、炭火で香をたいて主にささげました。しかし、その炭火は彼らの死を招きました（レビ10・1～2）。ダビデは神殿の務めを神さまの規定に従って決めました（19）。いくら合理的・効率的だと言っても神さまのお言葉を守ることより大切なことはありません。

まからてるひさ
大牟田フレンドシップ教会と眞柄光久牧師、ふくいまさみ
福井正躬協力牧師、かのうよしひみ
叶義文教会主事（福岡・大牟田市）

12日(日)歴代誌上25章

ダビデは12人ずつ24組の計288人の賛美隊を組織して奉仕に就かせます。賛美は単に宗教音楽ではありません。神さまの栄光をあらわす感謝と喜びの告白です。最近どんな賛美歌を歌っていますか。み言葉と賛美がバランスよく生活の中で満たされるようにしましょう。今日は好きな賛美歌を一日中歌いましょう。

有明教会と田中^{ふみひと}文人牧師（福岡・大牟田市）

13日(月)歴代誌上26章

神殿のそれぞれの門を守る者たちと神殿の宝物庫を管理する者たちを立てました。神殿の聖さを守り、神さまにささげられたものを大切にするためです。パウロは「わたしたちは生ける神の神殿」と言います（Ⅱコリ6・16）。主から受けた信仰を守りつつ身も心もきよめられた生活をしていきましょう。

大牟田教会と浦^{はら}肇牧師（福岡・大牟田市）

14日(火)歴代誌上27章

王の家畜を管理する者の中には外国人もいます。彼らが最もうまく管理すると思ったからでしょう。肌色、言語、文化が異なる人びとに対する偏見が排除された人事です。神の国は差別や偏見などのない国です。今日会う人を偏見や先入観をもって判断するのではなく、彼のありのままを受け入れましょう。

五^{ごとう}島教会と中村^{なかむら}聖架牧師（長崎・五島市）

15日(水)歴代誌上28章

神殿を建てることができないダビデは、子ソロモンに神殿建築の設計図等を仔細に準備して渡しました。このすべては主なる神さまが示されたとおりでした。自分の思い通りに働いていませんか。何をするにしても始める前にまず主なる神さまのみ言葉という設計図を注意深く見てみましょう。

多良見教会と李^{いす}守卿牧師（長崎・諫早市）

16日(木)歴代誌上29章

神殿建築のためにダビデと民は自分の大切な所有物を「自ら進んで」(5) ささげました。ささげものをする際、「主のご用のための献金」だけをささげていませんか。献金は恵みに感謝して「自分の身も心も時間も物もを惜しみなくおささげします」という献身の決断です。今日一日も感謝をもって自分をささげましょう。

長崎教会と曹銀珉^{チョウオンミン}牧師、田口圭子^{カミケ}副牧師、嘉手刈^{カテカ}夏希^{カキ}音楽主事、竹内洋美^{ヒロノ}教育主事(長崎・長崎市)

17日(金)歴代誌下1章

ソロモンが王になって最初に求めたのは、王として民に仕える知恵でした。教会と信徒の最優先順位は神さまと隣人への愛の実現です。自己愛は最大の敵です。クリスチャンは自分の益ばかり求める自己愛をやめて、自我を抑えて他人の益のために奉仕する者です。これこそ神さまに喜ばれる生き様です。

諫早教会と向山満^{むこやまみつる}牧師(長崎・諫早市)

18日(土)歴代誌下2章

ソロモンが神殿を建築する目的は、「主なる神さまのみ名のため」「主に礼拝するため」です。神殿建築という大業を行う王として高ぶらずに大いなる神さまの前で自分を低くします。「…わたしは何者でしょうか」(5c)。この一言からソロモンの信仰と人間性が見えてきます。常に主を意識して歩みましょう。

大村古賀島教会と川久保拓也^{たくや}牧師(長崎・大村市)

19日(日)歴代誌下3章

ソロモンは神殿の正面に柱を二本立て、右をヤキン、左をポアズと名付けました。ヤキンは「彼が建てる」、ポアズは「力を持つて」という意味です。「神殿は主ご自身が力を持って建てる」のなら、キリストにある神殿である私たちも主のみ力によって支えられています。日々信仰と勇気をもって歩みましょう。

相浦光教会(長崎・佐世保市)

20日(月)歴代誌下 4章

ソロモンとフラムが神殿での礼拝に使われる数多くの祭具を作ったとありますが、実は彼らが手ずから作ったわけではありません。数多くの職人によって作られました。みな心を一つにしてそれぞれの奉仕と献身をもって取り組んでいく教会形成は主の喜びになるでしょう。今日、何をしても、主の栄光のために。

佐世保教会と鮫島則雄牧師（長崎・佐世保市）

21日(火)歴代誌下 5章

ソロモンは神の箱を運ぶ際に、ダビデの過ちを繰り返しませんでした。主の掟に従い、レビ人に担がせて運ばせたからです。私たちの失敗と成功は、み言葉に従うか否かによります。私たちの考えや思いが神のみ言葉にふさわしいか常に問うべきです。いくら優れた知恵でも主のみ言葉に勝るものではありません。

嬉野教会と藤野慶一郎牧師、橋爪義行伝道主事、金在勝^{キムジエソン}・張敬恩^{チャンギョングン}各協力宣教師（佐賀・嬉野市）

22日(水)歴代誌下 6章

ソロモンは、イスラエルの民が神殿に向かって求める際、神さまからの赦しと回復を得させるように、と祈ります。私たちの体と心は主なる神さまに向かっていますか。私たちを癒し回復するお方は、ただ一人主なる神さまです。金銭、地位、出世、夢ではありません。神さまに向かって方向転換しましょう。

鹿島教会と玉置行牧師（佐賀・鹿島市）

23日(木)歴代誌下 7章

ソロモンは主なる神さまから祝福と災いを言われました。祝福と災いの間に「律法遵守」があります。私たちの命は主のみ言葉につながっています。枝は木につながっていないと枯れてしまいますが、つながっていると豊かに実を結びます。今日もイエスさまにつながって主に喜ばれる実を結んでいきましょう。

佐賀新生教会と河野正成牧師（佐賀・佐賀市）

24日(金)歴代誌下8章

神殿と王宮の建築には約20年という長い年月がかかりましたが、何の問題もなく無事に建築を終えました。そのうちソロモンの時代は、軍事、外交、内政、経済的に繁栄しました。神さまの言葉通りに従う者に約束された祝福です。何よりもまず、神の国と神の義を求める者にすべてをあたえる神さまです(マタイ6・33)。

たまみず 霊水教会と ひろひさ 湯川洋久牧師(佐賀・佐賀市)

25日(土)歴代誌下9章

ソロモンの知恵と富の噂を聞いたシェバの女王は、多くの香料や銀金等を持参してソロモンのところにまでやってきました。

イエスさまは神の救いの福音を聞こうとしない人びとに向かって最後の日、南の国の女王が立ち上がって裁くであろうと警告しました(ルカ11・31)。み言葉から聞くためにどんな努力をしていますか。佐賀教会と奥村敏夫牧師、中村千枝子伝道師(佐賀・佐賀市)

26日(日)歴代誌下10章

ソロモンの王位を受け継いだレハブアムは民と自分の益の間で自分の益を選び取ります。レハブアムの自己愛はイスラエルの分裂をもたらします。王になったばかりのソロモンが民に仕えるために「聞き分ける心」を求めたのとは対照的です。利害関係に置かれているとき、信仰は試されます。

大川伝道所と奥村敏夫牧師(佐賀・大川市)

27日(月)歴代誌下11章

失った王国の一部を奪還するために軍隊を召集したレハブアムは、主の言葉に従って撤退します。そしてユダとエルサレムの町々を強くします。主に許されなかったことに無理をせず、許されたことに忠実に使命を全うする誠実さが求められます。主のみ心は何なのかわきまえることが生きる道です。

インドネシア伝道と野口日宇満・野口佳奈各宣教師のために

28日(火)歴代誌下12章

イスラエルの民にレハブアムは、国を固くし国民の安全を守った王として覚えられるかもしれませんが、歴代誌の著者は、律法を捨て神さまを求めない悪を行った王として記しています。私たちの人生は神さまにどのように判断されるのでしょうか。ぜいたくに生きるのではなく、み言葉が示す道を今日も歩みましょう。

国際ミッション・ボランティアの働きのために（佐々木和之氏・ルワンダ）

29日(水)歴代誌下13章

南ユダの王アビヤの軍勢は40万、北イスラエルのヤロブアムのそれは80万。客観的に南ユダに不利な戦いです。しかし結果は主なる神さまを頼みとしたユダの勝利でした。神さまがイスラエルの人びとをユダの手に渡されたからです。勝利は主のものです。いくら難問難題がふりかかっても主に頼る者は倒れません。

シンガポール国際日本語教会（IJCS）のために

30日(木)歴代誌下14章

三代目の王アサは、異国の宗教の風習を取り除き、神の律法に従う聖なる国を作りました。神さまは彼を祝し平和を与えました。今思い出す罪は何ですか。罪を悔い改め、神の言葉に立ち返りましょう。自分の命、所有、時間、信仰など主によらないものは一つもありません。主に頼る者に主の平安が与えられます。

ブレス・カンボジア・ネットワーク（カンボジア）のために

31日(金)歴代誌下15章

アサは母マアカがアシェラの偶像を造ったので彼女を太后の位から退けるほど大々的に厳しい改革を行いました。アサの心は生涯主と一つでありました。信仰生活は適当にしてはいけません。かけがえのない主を心を尽くし力を尽くして愛するのです（申6・5）。あなたにとってイエスさまは何番目ですか。

ライズ&シャイン（ネパール）のために